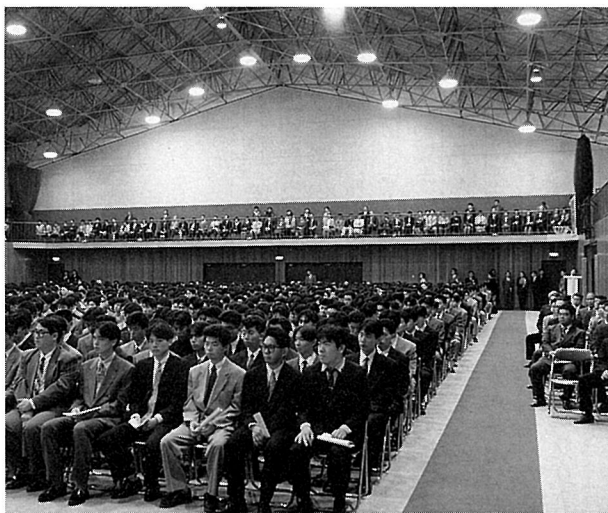


第26回 入学式挙行される



平成四年度工学部並びに大学院工学研究科の入学式が、四月四日本学体育館で挙行さ

れた。工学部の新一年生は一〇二六名で、機械工学科二六四名・電気電子工学科二六四

名、建築学科二四六名、システム工学科二五二名である。また、大学院工学研究科では修士課程で、機械工学専攻三名、電気工学専攻二名、建築学専攻六名の計二十九名が入学、博士課程(後期)で電気工学専攻一名が入学した。

学長式辞のなかで大川学長は、学園の八十五年におよぶ歴史について触れ、その間、学園が教育目的として掲げてきた「机上でのみ考えるのではなく、実際に手を動かして考える実践的な工業教育」こそが本学園の伝統であるとし、新入生諸君には、この本学園の伝統を学んでほしいと述べ、新入生諸君の本学におけるこれからの学生生活を励ました。

伝統ということ



新入生諸君、入学おめでとう。今回諸君が経験した平成四年度の大学進学状況は、大変さびしいものでした。それは、選抜され、本日よりして日

ハオ人口が二〇五万人余りと、戦後二度目のピークを迎えたためです。こうしたさびしい受験状況のなかで、諸君は選抜され、本日よりして日

新入生への言葉

日本工業大学 学長 大川 陽康

本工業大学入学式の日を迎えた訳であります。そうした諸君であればこそ、私は本年度入学生それぞれ一人ひとりが、工学に対して強い目的意識と高い希望を持って本学に入学してきたものと思っています。

さて、諸君がこれから四年間学んでいく日本工業大学は、これまでに八十年余りにおよぶ歴史をもった学校法人日本工業大学を母体として、昭和四十二年に設立された大学です。そして、母体である学園は明治四十一年、小石川に東京工科大学が開校したこと

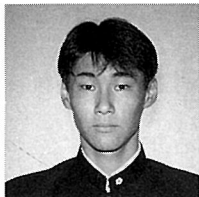


発行所
日本工業大学
広報課
〒345 埼玉県南埼玉郡
宮代町学園台4-1
☎ 0480(34) 4111

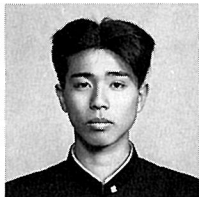
新入生 特集

平成4年度

特別奨学生紹介



岩崎 雅仁
(日本工大付東京工)



桑原 紀博
(高田工)



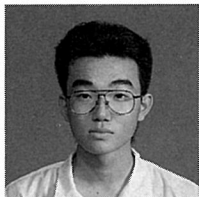
酒井 諭
(久喜工)

機械工学科

特別奨学生は毎年九月に選考が行われるが、平成四年度は次の十六名で、「学業成績が特に優秀で、強い向学心、優れた特徴・特技を持ち、本学入学後にその伸展が期待出来る者」との基準によって選ばれた。選考された特別奨学生には、入学金および在学中の学費の全額免除か一部免除の特典が与えられる。奨学生たちの、本学における今後の活躍が期待される。



横井 繁幸
(横手工)

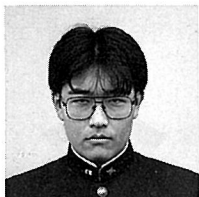


藤田 和宏
(男鹿工)



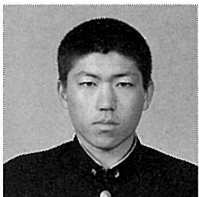
岡田 武晴
(足利工)

者」との基準によって選ばれた。選考された特別奨学生には、入学金および在学中の学費の全額免除か一部免除の特典が与えられる。奨学生たちの、本学における今後の活躍が期待される。



松目 和幸
(栃木工)

システム工学科

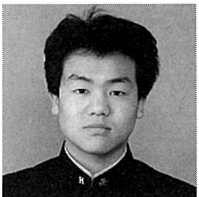


五十嵐 修
(釧路工)



石北 年幸
(桐生工)

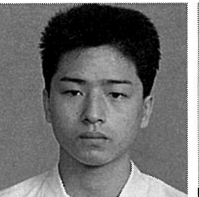
建築学科



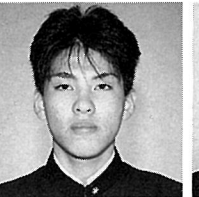
沖 哲也
(川越工)



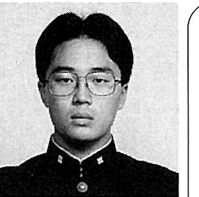
小室 しのぶ
(越谷総合技術)



菅原 宣雄
(修善寺工)



鈴木 英文
(静岡工)



荒澤 磨紀
(春日部工)

電気電子工学科

◆一般入学試験

◎入学試験の日程

出願期間	試験日	合格発表
1月9日 2月6日	2月12日 機械工学科・電気電子工学科 2月13日 建築学科・システム工学科	2月22日

◎試験科目および出題範囲 (A方式またはB方式を選択受験)

志望学科	方式	試験科目	出題範囲
機械工学科 電気電子工学科	A方式	数学 理科 英語	数学I・代数・幾何・基礎解析・微分・積分(確率・統計を除く) 物理(理科Iの物理の関連分野を含む) 英語I・英語II・英語IIB・英語IIC
建築学科 システム工学科	B方式	数学 専門 英語	「数学I+基礎解析・微分積分」または「数学I+工業数理」のいずれか選択。 志望学科の専門科目(*) 英語I・英語II

※システム工学科(専門科目)は、機械、電気・電子、情報技術関係の範囲より出題された15問のうち、5問を選択のうえ解答する。

◆募集学科および定員

機械工学科	200名	建築学科	200名
電気電子工学科	200名	システム工学科	200名

◆推薦入学選考

◎選考日程

出願期間	試験日	合格発表
10月1日~10月12日	10月23日 小論文	11月2日

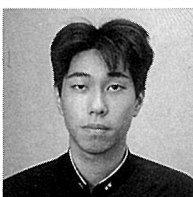
◎出願資格

高等学校(工業科)を平成5年3月卒業見込みで、志望関係学科に在籍の者。

平成五年度 日本工業大学 学生募集要項



大場 純一
(下館工)



佐藤 貴幸
(室蘭工)

前向きに生きて欲しい

竹内 淳彦



入学おめでとう。諸君達は、これから始まるカレッジライフに夢を膨らませていることでしょう。ところで、世の中には入学はめでたくな、卒業してこそめでたいの、という人もいますが、これはどうでもよい間違った見方です。それは、大学に入ることにより、信がありませんが、日本工業大学に入学することにより、従来とは格段に違う世界に入り、成長し、人間を大きくすることができからです。解り

新入生の皆さんへ

鈴木 寛次



入学おめでとう。皆さんは四月から日本工業大学の一人になりました。あの晴れやかな入学式の日から皆さんの新鮮な気持は続いています。どうか。高校生と大学生の相違を実感できていますか。根本的な相違は「大人の意識」にあります。今までは、すべての面において親の保護のもとにありましたが、これからはそうはいきません。生活・学業すべてにおいて自分の判断で行動しなくてはなりません。最近の世評によると「近頃の大学生は自立心に欠ける」とか大学生は甘えている」とかの批判もあります。確かに、そんな特色も

新入生へのメッセージ

ないわけではありませんが、この傾向は若者にはいつの世でもあったのです。世間が何と言おうと、皆さんは自分と大学生としての自覚と自信を持って行動すればよいのです。また、それ以外に方法もありません。五月病といふ言葉を知っていますか。大学生になって張り切っていた気持ちが薄らぎ、次第次第にあの入学式の日の充実感が失せてゆき、やがては人間の中に潜在的に存在する「怠け癖」が首をもたげ、時期にかかると一種の倦怠感のこころです。

なぜ「五月病」にかかるのでしょうか。大学生の自覚が足りないからです。先程も言った通り「大人の自覚」を持たないからです。これからは頼りになるのは自分だけです。学業に精を出すのも、生涯の友人をつくるのも、結局は自分で頼りにして、自分の力で生きてゆこうとしなければなりません。大学の授業も適当に出席していれば何とかなるだろう、友人もそのうち出来るであろう、などと安易に考えていると「五月病」にかかるのです。「五月病」と仲良くしないためには、物事に対して積極的になることです。高校生までに皆さんが知っていた世界は、実は非常に狭い世界でしかなかったのです。世間にはもっともっと広い世界があるのです。どこにあるのでしょうか。それは皆さんの極めて近い所にあります。そこが「日本工業大学図書館」です。高校までの図書館と

として諸君を魅了するところでしょう。今まで単なる手段と考えていた自然科学の分野では、宇宙のロマン、数や物性のロマンを学ぶことができるでしょう。人文科学ではこの世を生きていくための心のあり方、感性について身につけることができるでしょう。工業は技術だけでは成り立ちません。そこで技術を活かす産業、産業が存在する現代社会の仕組みについての理解を深め、考える力を身につけるのが社会科学です。日本だけでなく、世界のなかでルールを守り調和して生きていく力を身につけて欲しいと思います。各地で起こっている貿易摩擦、さらには国と国、民族と民族の対立の問題も、単に技術だけでは進んだ社会的知識と素養を持たない限り、理解も対処もできない。そんな探求の生活、青春を身体ごとぶつけ合う中から真の友情が生まれます。よい友情は若いうちに結んで下さ

い。大いに友人と語り合うとともに、研究室の門を積極的になたき、疑問をぶつけ先生と心の付き合いを持って下さい。そんな中から自我が形成されていくことでしょう。いま、われわれの生活はめまぐるしく、変化の早いものになりつつあります。言葉を換えれば、常に満腹で、ただ近代文明の流れの中にいるように思っています。季節感すら失われつつあります。これはわれわれの人生にとって危険なことです。私は、何回か反省し飛躍する時を持ち、そして前向きに生きる、それが人間らしい生き方だと考えております。いま、大学のキャンパスの内も外もまばゆいばかりの新緑です。大学は新しい世界であります。人生八十年はキャンパスライフをどう過ごすかによって決まります。挑戦す

ば、ホームシックは人間性のあたたかさの現れだと思っております。そんな「五月病」にかかった人も是非、図書館に来て下さい。図書館は皆さんが研究する専門書だけを揃えているのではなく、あちこちの雑誌・新聞も揃っております。皆さんの悩みを解決してくれる図書も揃っております。「恋愛」で悩んでいる人の本もあります。「人間関係」で苦しんでいる人のための本もあります。下宿やアパートで一人て悶々と苦しむ必要はありません。図書館の本が皆さんの相手をしてくれま

人事異動

新任

（四月一日付）

▼教養科 教授
山岸 嵩（やまぎし・たかし）



昭和十一年七月六日生。昭和三十三年三月、東京大学文学部美術史学科卒業。前日本放送協会番組制作局文化番組プロダクション・チーフディレクター。

▼システム工学科 教授
原 利次（はら・としつぐ）



昭和十三年七月十三日生。昭和三十三年三月、東京大学工学部航空学科卒業。前朝日製作所航空工場開発部主任技師。工学博士（東京工業大学）。

▼工業技術博物館 教育技術員
丹野 哲也（たんの・てつや）



昭和四十二年七月二十七日生。平成三年三月、東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科技術教育専攻修了。

▼建築技術研究センター 教育技術員
田中 実（たなか・みのる）
昭和三十五年八月十八日生。



昭和六十三年三月、日本工業大学工学部建築学専攻修了。前福島県土木部住宅課員。



昭和四十一年八月十六日生。東洋大学法学部卒。

昇任

（四月一日付）

▼機械工学科 助教授
有賀 幸則（ありが・ゆきのり）

慶応義塾大学より

佐伯助教授に

博士の学位授与



本論文は、緒論によれば、空気比に二・三倍の高い絶縁性能を持った「気圧のSF₆ガス中における球ギャップを繰り返し放電させたときの破壊遅れの種々の測定を通じて、破壊遅れに影響を及ぼす因子の解明を目的」としたものである。

☆☆☆



昭和二十四年七月二十五日生。昭和四十七年三月、日本工業大学工学部機械工学科卒業。五十年三月、工学院大学大学院修士課程修了。五十四年四月、本学機械工学科助手。六十年四月、同専任講師。



昭和三十一年五月二十六日生。五十九年三月、慶応義塾大学大学院工学部電気工学科専攻博士課程修了。同年四月、本学電気工学科 現電気電子工学科 助手。六十二年四月、同専任講師。

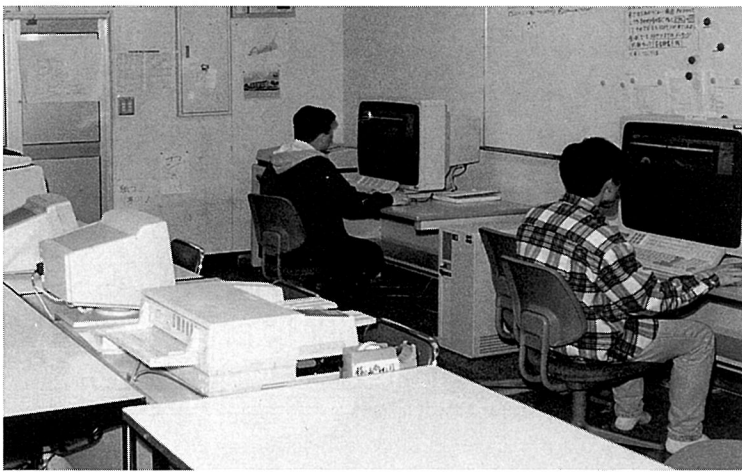
退職

▼佐々木 富三 教養科教授
▼近藤 通明 システム工学科専任講師

全国の大学にさきがけ 新CADシステム導入

本学製図棟に、これまでのCADシステムに代わり、アメリカ・インターグラフィ社製の最新システムが導入された。このシステムは、CADシステムとしては最高機能に属するものであり、従来日本でも導入しているのは民間大手企業数社のみであった。今回本学に、大学関係としては初めて導入されたので、担当の梅崎栄作機械工学科助教に解説をお願いした。なお、同システムは文部省より平成三年度私立学校施設整備補助金教育装置を受けている。

昨年の十二月にエンジニアリングワークステーション(EWS)ベースの三次元CADシステムが機械工学科CAD室(一部は建築学科)に導入され、この四月から教育、研究に利用されている。コンピュータを用いて設計、製造するCADシステムは、製品の多種少量生産、品質向上、納期の短縮などが要求され、さらには人手不足などの理由から、企業にとってなくてはならない存在になり、大小を問わず導入されつつある。本学の卒業生の多くは設計、製造するCADシステムに、一九八三年七月に日本の大学では最初の本格的な三次元CADシステムが導入された。機械工学科として第一世代のこのCADシステムは、ホストコンピュータであるミニコンに四台のワークステーションが接続されたター

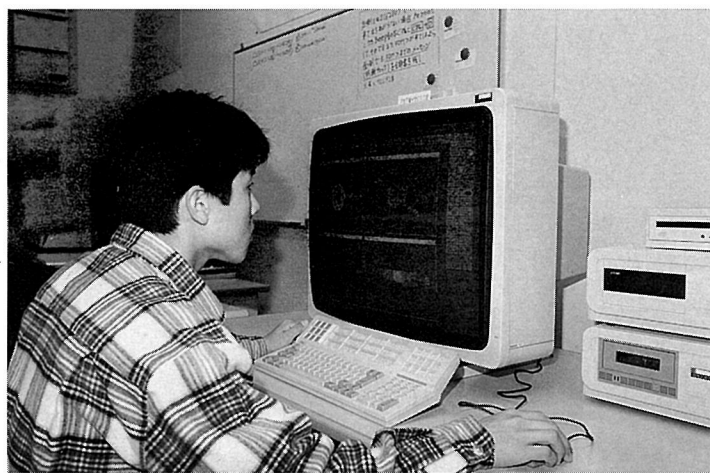


CAD室内部

ンキーCADと呼ばれるものであった。しかし、一九八〇年代後半になると、CADの流れは、パソコンを中心としたローコストCADとグラフィック機能やCPU性能の大幅向上、インテリジェント化、低価格化になったEWSを中心としたCAD(EWS・CADと呼ばれる)に「極化し、ターニングキーCADに取って代わられるようになった。このEWS・CADは、CADの発達の中では、第三世代にあたり、これからますます発達して行くと思える。そこで、機械工学科においても、そのような産業界の動向を考慮して、このEWS・CADを導入し、ほぼ一〇年間使用したターニングキーCADを一新した。機械工学科では第二世代である。今回導入したCADシステムのハードは、前回と同様にアメリカのインターグラフィ社製であるEWS(Inter Pro 6280)が二台、Inter Pro 2020が五台(一台は建築学科使用)とCGシステム、NCS(Inter Miller)、入出力装置として、A/Nターミナル、レーザービームプロッタ/プリンタ(A3)、XYプロッタ(A1)、磁気テープ装置(8mm 2・3GB)、CD-ROMドライブ、ウォークディスクである。Inter Pro 6280の主仕様は、CPU(18MIPS)、グラフィックプロセッサ(EDGE II)、CPUメモリ(48MB)、カラーディスプレイ(27インチ)、磁気ディスク装置(670MB/1.3GB)であり、Inter Pro 2020の主仕様は、CPU(14MIPS)

、グラフィックプロセッサ(GT)、CPUメモリ(32MB)、カラーディスプレイ(19インチ)、磁気ディスク装置(200MB)である。これらの大部分はローカルネットワーク(イーサネット)で接続されている。ソフトには、CADソフト(ワイヤフレームモデル、サーフェイスモデル、ソリッドモデル)、NCSフト(5軸NCマシンまで対応)、FEMソフト、CGソフト、建築ソフト(建築学科使用)がある。

本CADシステムの特徴として、ワイヤフレーム、サーフェイス、ソリッドの各モデルを混在して使用できること、自由曲面が使えるソリッドモデルであること、データ変換をしないEWS間でCADデータ転送ができること、下敷のような機能を果たすレファレンスファイル機能があること、一つのハードウェアでCADとCGができることなどがある。これらのCADシステムを使って、CAD/CAM/CAEを一貫して教育でき、さらにCGソフトによって、CAD教育用ビデオの作製ができる。



Inter Pro 6280

Inter Pro 6280 CADシステムはインターグラフィ社が販売しているものの中で最高機能であり、他のCADメーカーの上位機種と比較しても同等以上である。日本において、Inter Pro 6280 CADシステムを導入しているのは、企業では、松下電器産業(8台)、竹中工務店(6台)など大手数社だけでなく、大学関係では、本学のみである。新規CADシステムは、主として機械工学科の実習を伴うCAD関係の授業(機械工学実験II、CAD応用、設計製図III(コース)や卒業研究(機械工学科4研究室、各研究室のCAD実習ゼミ等に頻りに利用されている。なお、本システムは、今年の七月に行なわれる全国工業高等学校長協会と日本工業大学共催のCAD講習会に利用される予定である。

(機械工学科助教
梅崎栄作)

☆☆☆

武道館新築工事 起工 九号館増築工事



第5回日本工業大学建築設計競技表彰式

武道場の新築工事起工式が三月三日旧武道場跡地で行われた。新武道場の概要は鉄骨造二階建・延面積八六七・三四㎡で、設計・管理・施工は巴組鉄工所が行う。工事は九月下旬に完工予定。

起工式は大川陽康理事長をはじめとした学校関係者に加え、学生側代表として学生自治会委員長萩原高志君等が参列し、工事の無事を祈った。

旧武道場は狭隘なうえ老朽化が進み、従来より新武道場建築を望む声が大きかったが、今回ようやく新築工事の実現へといたったのである。

一方、九号館増築工事起工式も三月二十五日、同館西側



武道館鉄入れ



9号館起工式

は鉄筋コンクリート造の四階建て延面積は三五三・〇八㎡となる予定である。なお、設計・管理・施工は巴組鉄工所が行う。

第6回 日本工業大学建築設計競技

日本・アジア交流の場

文化とふれあえる住居

第5回入選作品 2等

第5回入選作品 3等

第5回入選作品 1等

課題
審査委員
提出期限
入賞発表

ノーマライゼーションを目指した住まい
清家 清・宮坂修吉・村口昌之
1992年8月31日
1992年9月30日

主催 日本工業大学

作品募集

第六回 日本工業大学

建築設計競技

本年度で第六回をむかえる日本工業大学建築設計競技の応募要項が決まった。今回の課題は「ノーマライゼーションを目指した住まい」となった。ノーマライゼーションという言葉は、建築関係を除けばそれほど馴染みがないであろう。現代用語の基礎知識には「ノーマライゼーションとは「高齢者も若者も、障害者もそうでないものも、すべて人間として普通ノーマルの生活を送るため」ともに暮らし、ともに生きぬく社会」という言葉で、一九七〇年代から日本でも注目されてきたことである。

一方、「課題の目指すもの」によれば「今回の課題は、車椅子での生活を余儀なくされている人が、家族の助けをなすべく借りずに、自力で生活できる住まいづくりである」となっている。このように、今回の課題は多くのアイデアが必要なものとなった。

応募要項は、四月上旬に全国の建築科またはこれに準ずる学科を持つ高等学校に郵送され、八月末日の提出期限を目標として競いあう。

【課題】
応募要項(抄)

【授賞式】
一九九二年十一月三日

【入賞発表】
一九九二年九月三〇日

【審査委員】
清家 清(本学客員教授)
宮坂 修吉(本学教授)
村口 昌之(本学教授)

【応募資格】
応募時に高等学校の建築科、またはこれに準ずる学科に在籍しているもの。

ノーマライゼーションを目指した住まい

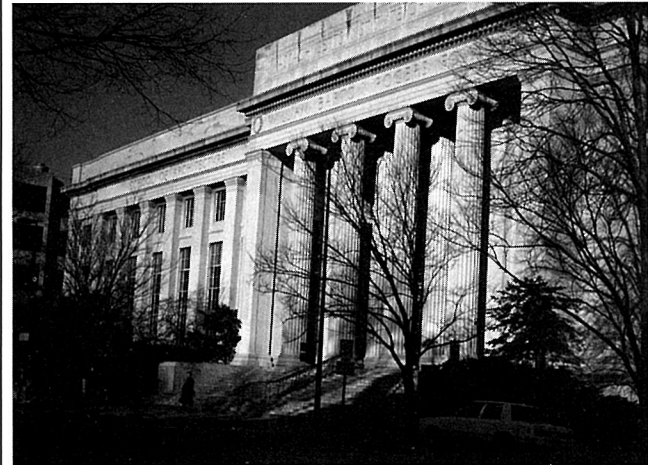
M.I.T.滞在記

横谷 真一郎

私は、1991年8月1日より1992年3月までの間、国外研修員としてアメリカの東部マサチューセッツ、Cambridgeにあるマサチューセッツ工科大学（略してM.I.T.という）に滞在しました。その間に私なりに感じたことを以下に述べてみたいと思います。

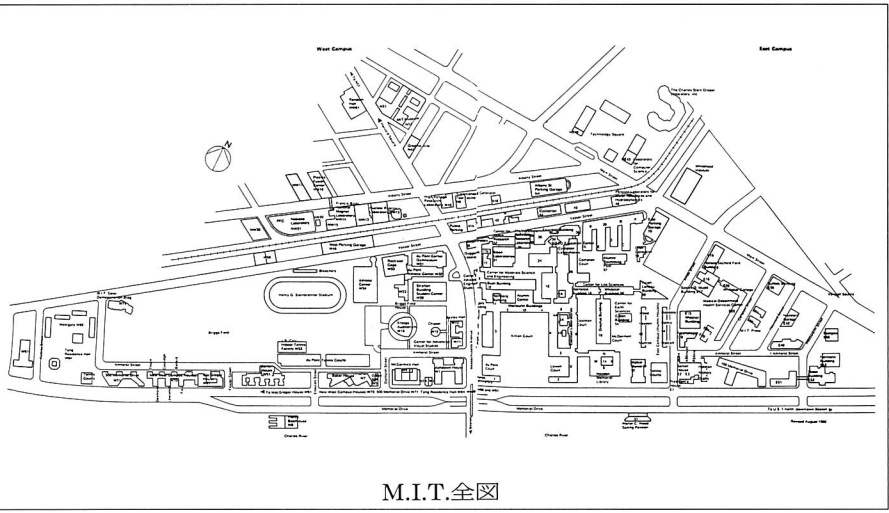
まず身近な事から書きますと、私はM.I.T.のMaterial Science部門のMathematical Modeling Laboratoryを担当しているJ. Szeckely教授のもとで、8ヶ月間にわたり仕事をいたしました。J. Szeckely教授はMaterial Processingにおける熱・物質輸送現象を専門としております。例えば、タンディシュ内の流れと熱輸送・Continuous Casting・溶接におけるブラズマ・溶融池内のConvection・表面張力流・溶射等、流体と熱輸送を合体させた分野です。この研究室のStaffは11人で、教授以下Assistant Researcher・Post Doc. 2人・Doctor Courseの学生5人・Visiting Scientist 3人、及びMaster Courseの学生数人から構成されております。日本と事情が異なり、Doctor Course以上の学生に対しては、Professorが授業料および生活費を支援しているようです。構成員はアフリカ人・フランス人・ドイツ人・スウェーデン人・インド人・日本人・アメリカ人・メキシコ人・ベネズエラ人と、肌の色も違えば身の丈も違うというように様々です。これらのStaffがあまり広くはない研究室でお互いに融通しあい、情報を交換して、ある時は議論をして、研究成果の効率化を計っています。

学生は図書館に行って本・文献を調べて研究テーマを決定し、Reportを纏めた段階でProfessorに提出して、その研究がGoodかBadの判定を受けるのが基本のようです。要するにProfessorの指導を受ける学生はBad Studentで、各学生がIdentityを発揮することを要請されています。Professorは研究室の運営費・学生の授業料・生活費を掻き集めることと、研究上の仕事とで大変忙しく、世界各国を東奔西走しています。従ってProfessorとDiscussionを持ちたい者は、月曜日から金曜日まではProfessorの研究室には近づけず、土曜日か日曜日となります。しかも所要時間は通常五分以内となります。



マサチューセッツ工科大学本館入口

次に、私の直接Touchした仕事について述べますと、M.I.T.では私は、日本工業大学で開発しようとしていたContinuous Castingのノズルの問題に取り組むことにしました。こ



のテーマは、私がアメリカに出発する直前1ヶ月足らずかけて取った卒研データをもとに、その理論的裏付け、電磁流体に拡張した時の現象、またノズル入口にSuper Heatされた熱湯を加えた場合のモールド内における速度分布・温度分布、およびImpurity (Particle) の運動等をシミュレートすることにより進めました。結果は良好で、これら一連の研究結果を1報・2報・3報とMetallurgical Transaction に論文投稿すべく、原稿の下書きを行いました。

また、私の活動範囲はMaterial Scienceの1研究室に限定されていましてので全体像を掴むことはできませんでしたが、簡単に大学や周辺の様子を紹介します。Massachusetts Institute of Technology (M.I.T.)は、正確にはCambridge地区のチャールズ川(川幅600m)沿いにあります。チャールズ川は夏の間はヨットの帆で真っ白になり、冬の間は表面が凍結して真っ白になります。チャールズ川の対岸がBoston、こちら側(M.I.T.側)がCambridge地区というように区分されています。M.I.T.を横断しているMassachusetts通りを、30～40分徒歩で行きますとHarvard大学があります。また、M.I.T.から地下鉄を利用して25分位のところに、世界四大美術館のひとつと言われるBoston美術館があります。収蔵品の質の高さと充実度には目を見張るものがあり、私も何度か足を運びましたが、特に古代エジプト・ギリシャ文明展は、回を重ねる毎にその良さを味わうことが出来ました。つまり、Boston地区はアメリカ発祥の地でアメリカの古都、日本で言えば京都と言ったところであり、世界の法文系と科学技術系の双璧をなす大学を有するアメリカの文教都市でもあります。

M.I.T.は1861年知識の実用化を設立の第一目的として創立され、現在は工学・理学・建築学・経営学・人文科学の5部門から成り立っております。学生数は3000人から4000人程で、ちょうど日本工業大学と同じくらいの規模です。それにStaffや院生・留学生をいれますと9000人から10000人となります。特に気付いたことは図書館が極めて充実していること、および授業が物凄いスピードで進行することです。

図書館は15館から構成され、たとえばAero/A*なら航空宇宙工学、Hayden/S*ならScience中心といったように、それぞれ特色をもっています。特にHayden図書館は1年を通して24時間閉まることのない図書館です。夜中の2・3時でも電灯が煌々としており、いつでも利用できるようになっています。また、研究室のワークステーションやコンピュータ端末は四六時中Switch Onされており、いつでも仕事に取り掛かれるようになっていることや、約80棟の建物が一年中冷暖房されており、いつでも使用可能な状態にあることから、M.I.T.ではEnergy Lossよりも効率を重視しているようです。

授業の方では学生便覧があり、どの分野の学生でも自由に講義を受けることが出来るように配慮されていて、幅広く深く学習するのが可能となっています。授業は物凄いスピードで進行し、例えば熱・物質移動論の講義では週2コマとして、約1ヶ月でNavie Stokes・乱流理論に及び、ほぼ流体力学の分野を終了します。授業中には演習問題をやることはないので毎週のように比較的抽象的な宿題が出され、各自個性のあるレポートをTeaching Assistantに提出してチェックを受けています。演習でもテストでも、自分を大切に個性ある作品を作ろうと努力しているようです。こういった前向きな姿勢について、我々も見習って、今後生かしていけたらと思います。

終わりにあたり、貴重なチャンスを与えて下さった大川学長先生を初めとして、広瀬治男教授・松木正勝教授・村上講師・渡辺講師に深謝いたします。(機械工学科助教教授)

募集

広い視野と国際感覚を
身につけるために。
夏季休暇を利用した
二つの海外特別研修。

第20回 日本工業大学

ヨーロッパ研修

ヨーロッパを学ぶベストプラン

期 間：8月24日～9月12日（20日間）
費 用：625,000円
研修地：ロンドン⇒ローマ⇒フィレンツェ⇒ヴェネツィア⇒フェッセン⇒ミュンヘン⇒ローテンブルグ⇒ハイデルベルク⇒パリ⇒ニース⇒バルセロナ
申し込み先：学生課・谷本

第9回 日本工業大学

カナダ特別英語研修

ホームステイによる生きた英語に触れる25日間

期 間：8月15日～9月8日（25日間）
費 用：528,000円
研修地：ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ・バンクーバー）
プログラム：午前3時間の授業（月～金曜日）。午後フィールドトリップ等
滞在先：バンクーバーの一般カナダ人家庭
その他：帰途サン・フランシスコで研修の成果を実践。
申し込み先：教務課・大久保／栗本

春から夏への 公開講座

公開講座センターは第二回日本工業大学室内楽コンサート（ヴァイオリン、フルート、ピアノ＋チェロ）を三月七日に開催し、多数の来場を得、好評を博しました。

公開講座の春から夏にかけてのプログラムは次のとおりです。今後も魅力ある企画をたてていきたいとおもっていますのでご期待下さい。

科目 英会話入門

講師 スティブン・グッドウイン氏

日程 5/6～7/8

科目 陶器を作ろう

講師 田口一雄氏

初級 4/20～7/6（毎週月曜）

中級 4/22～7/1（毎週水曜）

上級 4/24～7/3（毎週金曜）

講師 菊池晃氏

日程 4/23～7/2（毎週木曜）